

平成 26 年度 第 5 回福井市行政改革推進委員会 会議概要

- 1 開催日時 平成 27 年 2 月 24 日（火）14:00～16:00
- 2 開催場所 市役所第 2 別館 22 会議室 B
- 3 出席者
- (1) 委員 南保勝 委員（委員長）、内山秀樹 委員（副委員長）、稲葉明美 委員、今村善信 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、黒川俊枝 委員、齋藤万世 委員、澁谷政子 委員、田村洋子 委員
- (2) 福井市 外部点検対象事業の所管所属
- (3) 事務局 総務部長、総合政策室

4 会議次第

- ・ 開会（市民憲章唱和）
- ・ 協議 (1) 平成 26 年度外部点検結果に基づく対応について
(2) その他
- ・ 閉会

5 協議の概要

委員長	まず、協議事項 (1)「平成 26 年度外部点検結果に基づく対応」について、事務局から説明を。
総合政策室	【説明】
委員長	ただいまの説明に対し、何か意見、質問等はないか。
委員	防災センター運営事業について、27 年度から防災センターの啓発事業が運営事業に統一され、26 年度までは啓発事業としてやっていた各種研修会等、啓発事業事務諸経費が運営事業の予算に移ったようだが、26 年度と比較して 27 年度の予算が増額されているのはなぜか。事業を統合した結果、予算がスリム化されるのではなく増えるということもあるのか。
危機管理室	中身の充実を図っている。新しい事業として、防災サバイバル教室の予算がついた。26 年度は予算がないなかで実施していたが、27 年度は予算をとって実施していく。 また、災害映像の DVD があるのだが、その DVD が古くなってきたので、新しく現状に合ったものにするため増額となった。

委員	<p>質問が2点ある。1点目について、行政改革推進委員会が外部点検した結果、拡大すべきと判断した事業が拡大されていないように感じる。外部点検結果が「拡大」となったものについて、どうして予算が減額または現状維持となったのか。</p>
おもてなし観光推進室	<p>外部点検では、中心市街地等を含めた視点で横断的に連携して進めてはどうかというご指摘があったので、秋のライトアップなどについて、今まで事業ごとそれぞれで行っていたのを灯りの回廊の時期に合わせて実施するようにした。</p> <p>経費的に少なくなっているのは、今まで橘曙覧記念文学館壁面をライトアップしていたのだが、あまり効果的ではないのではないかという意見があり、そのライトアップを取り止めた分委託料は若干減額した。ご指摘のあった連携や全体的な雰囲気づくりについては反映をさせていただいた。</p>
介護保険課	<p>認知症施策総合推進事業については、26年度にかなり新規事業を取り込んで実施したので、26年度予算については少しゆとりを持った形になっていた。27年度予算については、26年度実績から必要経費を見込んだので、若干全体的に経費が減少しているかのように見えるが、内容はむしろ充実している。</p> <p>27年度は、新規で「認知症高齢者ひとり歩き見守り事業」を実施し、地域での認知症理解普及と、認知症への対応能力を強めていきたいと考えている。</p>
ガス・水道お客様課	<p>2月26日に27年度の事業を前倒しして九頭竜浄水場で採水を行う。来年度4月には、お客である市長部局の各所属にすぐに渡せるよう今月中に12,000本受注したいと考えている。</p> <p>外部点検でのご指摘は、福井市のPRを第一に考えてということであったので、とりあえず12,000本をすみやかに完売したいと思い営業し、販売先が決まった本数が9,900本ほどある。年度の後半に本数が足りなくなったら、その時点で増産を考えたいと思っている。</p> <p>また、PRツールに育てていくため、PRツールにふさわしいシールなどの新しいデザインをどうするかということについて、予算化はされていないが、検討委員会を立ち上げて今後考えていきたいと思っている。</p>
委員長	<p>増産になった場合、今の予算のなかでできるのか。</p>
ガス・水道お客様課	<p>27年度の予算は使っていないので、増産のための予算は十分にある。</p>
委員長	<p>愛宕坂にぎわい事業については、効率化の結果こういう予算となったということであり、認知症施策総合推進事業については、この予算で十分拡大できるということであった。ボトル水販売・宣伝啓蒙事業については、とても頼もしい考えを示してもらい委員会としてはありがたい。</p>

委員	<p>質問の2点目として、点検結果に基づく対応の要望等に対する取組の部分で、委員会が「検討してほしい」「研究してほしい」と意見を出したことに対して「検討する」「研究する」と返ってきているのだが、点検から4ヶ月たった時点でも「検討します」「研究します」と言っているのは、民間の感覚としては4ヶ月たってまだそこなのかと見えてしまう。「検討し、実行します」と回答している所属もあり、温度差を感じるのだが。</p>
委員長	<p>PDCAのサイクルを早く回してはどうかという意見かと思うが、事務局どうか。</p>
総合政策室	<p>ご質問の1点目については、「拡大」の評価をいただいた事業について、見える形で拡大になっていないということであった。「拡大」というには、事業の中身の充実があり人員的にも増える、金額も増えるというのが一番いい形ではあるが、27年度予算については経常経費について10%程度減額をしている影響がある。市役所の財政も厳しく、なかなか予算を増やすことができないなかで、各所属ががんばって前年度と同額程度の予算を確保している。おもてなし観光推進室の回答にもあったように、事業内容については、拡大とされたものに限らず、すべて見直しをして、類似の事業があるものについては統合している。</p> <p>目に見える形で対応していかなければいけないということは市長も申している。今後は厳しい財政の中ではあるが、金額的にも増やせるように、また目に見える形での事業展開を報告できるようにしていきたい。</p> <p>2点目の「検討する」「研究する」という表現について、官公庁特有の言葉使いになってしまっているが、市民の方に見ていただく外部点検の性格からすると分かりにくい表現になっているかと思うので、次回から取組むものは取組む、取組まないものがあれば取組まない、検討するにしても、どういう点を検討するのかということを含めて、なるべく明快な記述になるよう努力させていただく。</p>
委員	<p>今の発言に関してなのだが、我々も全部やってもらいたいと言っているのではなく、検討してほしいということで発言しているので、検討した結果として、やはりそれはできないというのであれば、それはひとつの成果だと思う。検討した結果こうしますとか、検討した結果こう変えていきますというのもひとつの回答だと思うのだが、検討した結果、今のやり方が一番いいので変えませんというのも検討結果だと思うので、検討についても、研究についても、できればそういう成果を残してもらったほうが対応として分かりやすいのではないかと思う。これは意見である。</p>
委員	<p>ボトル水販売・宣伝啓蒙事業について、ラベルを改訂するため、関係部局で検討会議を開催するそうで、行政の関係部局の方々だけで検討されるのも良いが、私の想いとしては、大学生や短大生など若い方々の意見を取り入れたラベルを作っていただけないかなと思う。そういう話は出ていないのか。</p>

ガス・水道お客様課	<p>今の段階では、国体関係や商工、観光の部署を念頭に考えていたが、これからまだ時間があるので、若い方々の意見を聞ける組織を作れないかどうか前向きに考えていきたい。</p>
委員	<p>市美展ふくい開催事業について、実行委員が審査委員を兼ねている現在の審査体制について見直していくとあるが、果たして現実的に見直しができるのであろうか。実行委員が全員審査委員であるので、実行委員を別にするとどういう形にするのか。5月10日の市美展開催まで何ヵ月もない状況で、果たして本当に改善していけるのか教えてもらいたい。</p>
美術館	<p>ご指摘の件について、外部点検のときにも説明させていただいたが、委嘱期間が2年間となっており、点検から4ヶ月たったが、早急に対応するのが難しい状況である。28年1月末まで委嘱期間があるので、今年5月に開催する市美展は現在の体制でさせていただき、終わった段階での検討ということにならざるを得ないのが現実である。外部点検でこういう意見をいただいたということは全実行委員（審査委員）の方にはお伝えしたのだが、50人ほどいらっしゃって、部門数も7部門ある。教室をやっている先生もいれば、個人のデザイナーもいて業種も多岐に渡っているなかで、ひとつの方向性を見出すというのは非常に困難だと思っている。</p> <p>ただ、26～27年間同じような体制でやっていて、今回、検討材料としてご指摘をいただいたので、いろんな意味で見直しを図らなければいけないと考えている。分かりにくい書き方をされていて申し訳ないが、5月の市美展が終わった段階で、現体制のなか実行委員と審査委員とを分けるということになると、例えば極論であるが50人のうち25人に実行委員になってもらって残りの25人を審査委員になっていただくということも考えられるし、まったく別の方を募集する方法もあると思う。今後、実行委員会でもいろんな考え方が出てくると思われるので、事務局だけの案で「今後こうします」ではなく、こういう書き方をさせていただいている。困難な道のりがこの1年は続くかと思っているので、ご理解いただければと思っている。</p>
委員	<p>外部点検時には問題にされなかったのだと思うが、鑑賞する立場としては、洋画などは展示数がすごく多いため、何が並べてあるのか鑑賞するどころでないと感じる。二段がけになっていたり、柱の死角に隠れてしまっていたりするので、そこも検討していただけるといいと思うのだが。</p>
美術館	<p>我々も立場的には学芸員であるので、先生方とその点についてはいつもぶつかる。市美展ふくいの目的が、美術の祭典ということになっていて、市民の方の作品を1つでも多く美術館に飾るということを優先しているということ、ご理解いただけたらと思う。ただ、照明の数が足りなかったり、変な場所に展示されたりと、通常の企画展とは全然違う展示になってしまうので、その点はまた実行委員と話をしていきたいと思う。</p>

委員	<p>展示場所は実行委員会が決めるのか。</p>
美術館	<p>7部門でだいたいの区割りをして、その壁面上に何点展示できるかということになっている。</p>
奥村委員	<p>前回の外部点検のときには、会場が狭ければ県立美術館で実施してはどうかという話もあったかと思う。市の美術展なので市の美術館でやりたいという想いは聞いたのだが、7部門もあって、それだけ作品が集まって展示がしにくいのであれば、部門別に開催日を分けるということは考えられないのか。</p>
美術館	<p>ご指摘の点は10年以上前から検討していて、部門を分けて点数を増やすという考え方もある。ただ、ある部門はたくさん見たい、ある部門はそんなに興味がないという傾向がある。そのために7部門全部あったほうがたくさんのお客さんが見てくれる。部門ごとに人数的な差が歴然となるのではと、県美展でそういう実績があったので、実行委員も危惧しているところであり、1回やってみようと踏み入れられるかというところがある。</p>
委員	<p>漁業協同組合強化育成貸付事業の関連事業をみると、6次産業化普及促進事業は26年度と27年度予算を比較すると倍くらいになっていて、越前福井の美味PR事業は35万円計上されて、26年度から関連事業全体で200万円くらい増額されている。</p> <p>6次産業というと、漁業だと採ってきて加工して小売までするのでとても大変だと思うのだが、これは誰がリーダーシップをとってやっていくのか。福井の「食」のPRを強化することなのだが、力をどこに集中させてこの事業をやっていくのか。6次産業と聞くと、ブランド製品を開発したり、どこに売っていくかということすべて企画していかなければいけなくて大変だなと思うのだが。</p>
林業水産課	<p>6次産業化普及促進事業について、現在、越廼漁協で「ぬかちゃん」というイカやサバ、アジのぬか漬けを婦人部で作っている。それを普及するため、デモンストレーションとして、ふくい鮮市場や西武での食の展示に力を入れていこうと、今までは農産物に限定して農政企画室という別の部署で予算化していたが、外部点検の結果、新たに水産物も加えていこうということで予算化した。</p> <p>また、越前福井の美味PR事業というのは、今年は越廼の祭りに「ぬかちゃん」をつくる婦人部グループの職員を入れて、県外のお客様に試食してもらい販売していこうと予算化をした。外部点検でご指摘があったように、身近なところで海産物を提案できる場を今回改めて予算化して強化していく。</p>
委員	<p>リーダーシップをとっていくのは、市なのか。それとも組合か。</p>

林業水産課	<p>今まで組合等が主催していたものを、福井市も協賛して支援していく。</p>
委員	<p>県内食品スーパー業界だけでみると、北陸3県の中で福井が一番競合がゆるやかである。ただ、県外資本が入ってくると福井の一次加工、漁協、漁業も含めてやられてしまう。これは官民間わずの総力戦で、福井県全体、流通業者も含めて全体で頑張っていないといけないことだと思う。ブランド化などそこまで大きくかまえる必要もないが、普段、我々が食べる食材も含めて福井にあるおいしいものを少しでも多くの人に食べていただく機会を作っていくというのは、これからもやらなければいけない。そうでないと、福井の食文化が他のところにとられてしまうことになりつつある。なんとか守っていかなければいけないので、ぜひ頑張ってやっていただきたい。</p> <p>あと、関連してなのだが中央市場にお客さんは入っているか。</p>
林業水産課	<p>以前は土日の来場が多かったが、最近は平日でもお客さんが来ていると市場の場長からは聞いている。</p>
委員	<p>中心市街地活性化基本計画推進事業について、点検結果の改善すべき点では、市民に対するプロモーション活動にも力を入れてもらいたいとなっていて、それについての対応では、プロモーションのことが記載されているのだが、予算が0円になっているのはなぜか。</p> <p>プロモーションというのは、何をプロモーションすべきかということが大事であって、単なる中心市街地の魅力となると歴史的にとかだけの話になってしまう。コンパクトシティというこれからの都市づくりのあり方を考えたときに、中心市街地というのは都市をこれから健全に運営していくうえで重要であるということプロモーションしていかなければいけないということが、外部点検の時の委員意見だったと思うのだが。</p>
都市整備室	<p>中心市街地活性化基本計画推進事業は、基本的に PDCA サイクルによる進行管理の事業で、中心市街地マネジメント会議という民間の方を主体とした会議のなかで活性化に向けた議論をしている。そのなかでもプロモーションについてご意見があり、まちなかの重要性について市民に対してもっと広く PR していくべきということで、今年度、冊子を市民団体と共同で作って PR 活動も並行してやっているところである。</p> <p>予算について、まず冊子などのツールを活用して、職員または冊子を共同で作成した NPO 団体と連携しながらいろんな場所で積極的な PR 活動を展開していきたいという想いがあり、PR 自体は必ずしも予算を使わなくてもできるので、来年度予算がなくてもやっていきたいという表現になっている。</p> <p>また、何をプロモーションしていくかということについて、中心市街地のこれまでの歴史、文化を重視して PR していきたいという想いがある。また、歴史、過去から未来というのがあるけれども、現在、リアルタイムで動いている西口再開発事業を中心に、まちなかで様々な事業が行われているので、歴史とのつなが</p>

委員	<p>りを見出しながらそちらも PR していきたいと考えている。</p> <p>ボランティア活動支援事業について、点検結果に基づく対応のなかでボランティアコーディネーターを養成し配置していくと記載されている。市民活動や NPO を育成していく取組のなかでもコーディネーターとか専門家をとという話はよく出てくるのだが、そういった立場の方の待遇はどうなっているのか。断片的なアドバイス、支援をしてもらうのか、それとも継続的な支援かでだいぶ違うと思うし、配置する方の資質やレベルによっても全然違う。こういった方をどんな雇用形態で考えているのかを教えてください。</p>
男女参画・市民協働推進室	<p>ボランティアセンターの事業では、ボランティアコーディネーターの役割が大きイと考えている。ボランティア活動をしたい人と求める側を適切につないでいくという役割で、知識や技能を持った方々をこれから求めていきたいと考えている。</p> <p>待遇面については、非常勤特別職を考えており、ボランティア活動の実践経験がある方や、社会福祉協議会とのつながりが深い方、そういったなかで経験をつまれている方々を採用して、ボランティアコーディネーターとしての実践スキルを高めていただく。スキルを高める方法としては、オープンまで1年間あるので、社会福祉協議会に出向いて実践経験を積んでいただいたり、NPO 法人日本ボランティアコーディネーター協会のボランティアコーディネーション力検定の資格認定制度があるが、その資格をとる研修に派遣する。資格取得に関連する予算も27年度もりこんでいる。</p>
委員	<p>生活安全活動支援事業と高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業について、これは住民サイドから見ると同じ安全・安心といった話である。</p> <p>特に生活安全活動支援事業を議論したときに、本当に犯罪が起きないまちづくりを実現するために、住民の自治力とか犯罪の見守りとか常に住民の目が行き届いているということが犯罪に対する抑止力になるので、住民への意識づけや啓発等の方向への政策展開を期待して再構築としたはずだが、会議をやめた、従来どおり各種団体への補助金は出すというだけで、葉っぱがとれて枝だけになった感じがして少し残念であった。</p> <p>高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業は、モデル的な事業なので、後は福井市全体に政策展開をしてくださいという話だったが、結果的には新規事業として福井市あんしん見守りネットワーク構築事業が始まるということである。否定はしないが、もうひとつ自治会までふみこんで見守りをしてもらいたかった。他で実施しているのかもしれないが、これだけを見ると、事業委託だけで終わってしまうのかなとちょっと不安になった。企業への働きかけとして、企業の社会貢献という観点で、無償でやるという運動はできないのかと思った。どんどん増やしていくと予算が増えるだけなので、その点についての考え方を聞きたい。</p>
危機管理室	<p>団体への補助金については、福井市単独でやっているものではなく、県内の各</p>

	<p>市町が割り当てという形で出しているものである。また、協議会については、例えば、少年非行とか交通安全とか警察関係の事案について市の内部で重複する形の会がある。危機管理室でも生活安全推進協議会をやっているが、テーマがだぶってしまうことがあった。今回ご意見をいただいたので、我々の会は解散をして、横断的な組織を作っていきたいとした。</p>
長寿福祉課	<p>表記の仕方が誤解を与えてしまったと思う。関連事業の福井市あんしん見守りネットワークの協定についてはライフライン、新聞販売店、郵便配達、宅配便、保険、商業、医療、介護といった 29 の団体と協定を結んだ。その内容は、日常の業務の範囲で気づいたところを市に連絡していただき、市はその報告を受けて関係機関、警察、消防と連携して困難事例の解決に結びつけていくという、まさに地域貢献の力をお借りしたもので、委託をしている事業ではない。その他に自治会連合会をはじめ、福祉団体とともに発足した。全部で 35 の団体と、見守りについて通常の活動のなかで何か異変に気づいたときに連絡していただく、協力していただくというネットワークである。</p> <p>予算について、福井市あんしん見守りネットワーク構築事業は、自治総合センター（宝くじ）のコミュニティ助成事業という全額補助の事業に申請を出した事業であり、申し込んだ内容は、見守り活動をしていただく各事業所へ、見守りのガイドライン的な見守り手帳という配達、営業に回る人が持ち歩けるポケットサイズのものをつくって、配達の手帳や、参画していただける事業者さんの店舗等に設置していただくもの、また、声かけをしたり各戸訪問するなかで協力事業者ということが分かるようにステッカーなどを作って配布するといったような関連事業の予算である。事業自体は採択されなければならない事業ではないので、採択されなかったときにはステッカー等はなしで実施する。</p>
委員	<p>メロンでいうと網の部分の部分を行政がしっかりして、その間の部分を地元とか自治会等がするという、両者がする形でいいと思うのだが、企業も最初の年は頑張るが、そのうちに形骸化していってしまったりすることがあるので、2 年目、3 年目の見守り力を高めて維持していくといったことに力を入れてもらいたいと思う。</p>
長寿福祉課	<p>今の計画では、毎年 1 回担当者に集まっていただいて、お互いの活動等を報告する連絡会を開催したいと考えている。いろんな事案の報告について、その後の対応状況を個人情報保護上許される範囲内で返していきたいと考えている。</p> <p>今後も今の事業者以外に交通事業者など、関連のある事業者に声をかけていきたいと思っている。</p>
委員	<p>著名作家紹介特別展開催事業で、我々は橘曙覧の業績や郷土の文学活動の振興ということに立ち返って特別展を企画してはどうかと、かなり大変な要望を出したと認識している。橘曙覧という 1 人だけから、どれだけのことが生み出せるかというと限度があるが、それでも頑張るという力強い言葉をもらい、予算に関し</p>

<p>おもてなし観光 推進室</p>	<p>でも増額ということで意欲も見せてもらっているが、実際の見通しはどうなっているのか。続けていくとなったときに、例えば展示という形に限定しないとか、ワークショップや研究会の開催をしたり、いろんな形で実施することが考えられるが、どんなアイデアを持っているのか。</p> <p>この企画展は年間5回行っていて、そのなかの1回がこの著名作家特別展であり、残りの4回については橘曙覧に関連したことをこれまでも10年以上行っていて、橘曙覧と伊勢参りとか、関連した事業をとりあげてきた。今回、外部点検の指摘を受けて、当初の目的である、橘曙覧に関連するということで、学芸員もなかなか大変だとは思いますが、来年度は橘曙覧の実家が文房具屋だったということから、その当時使っていた文具はどういうものだったのか、文具から広がる世界など少し違った切り口から文学に興味を持ってもらえるような内容としたい。</p> <p>また、2月1日からは福井県の文学館ができ、作家のとりあげというのはそちらのほうで進めていくと思うので、差別化して、いろんな知恵をしばりながら企画展をしていきたい。そのなかで、今後も橘曙覧に関連したいろんな切り口の企画を頑張っって練っていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>小さなところで企画をするのは本当に大変なことだと思っているので、頑張っっていたきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業について、関連事業のなかで、福井市シルバー人材センターなどいろんなところに委託しているようだが、委託しているところとの合同の会議はどれくらいの間隔で持つことにしているのか。委託しているところだけで情報を握っていて、行政のほうには連絡が入ってくるけれども、お互いには連携ができていのかどうかということを知りたい。また、これは高齢者に関わらず、生活安全活動支援事業にもかかってくることだと思うので、課の連携はどのようになっているのか。</p> <p>また、市美展について、実行委員と審査委員を別にするのが理想的だとは思いますが、慎重に取り扱っていただきたい。</p>
<p>長寿福祉課</p>	<p>長寿福祉課のそれぞれの見守りに関する事業について、各事業者に委託しているので、各事業者と長寿福祉課との定期的なやりとりはもちろんあるが、事業者同士というものはない。ただ、民生委員には、そういう情報は全部伝わるし、長寿福祉課にも社会福祉担当者がいるので、情報を一括して共有する体制になっている。地域の包括支援センターと民生委員と長寿福祉課とで連携を取り合っている。</p> <p>危機管理室では、要援護者の名簿を作成していくなかで、高齢者のひとり暮らしの名簿も共有し、それ以外にも支援が必要な高齢者について連携をとって把握をしている。</p> <p>また、最近非常に問題になっている子どもの問題についても、一緒に目を配っていただくという提携を事業者との協定の中に入れていく。</p>

委員長	<p>庁内でも横のつながり、情報の共有というのは非常に重要で難しいと思うのだが、頑張っていたきたい。</p> <p>美術展の意見についてはどうか。</p>
美術館	<p>事務局のなかでもいろんな意見があり、50人の実行委員と今後協議していくのは大変だと思う。審査委員と実行委員を分ける目的は、審査に疑念、誤解をまねかないようにということをと考えると、審査を公開して入選、落選について説明責任を果たしていくことが体制以上に大切ではないかと個人的には思うので、そういうことを踏まえながら、今後先生方と話し合いをしていく。</p> <p>審査委員と実行委員を分けることが可能かどうかと問われれば、可能だとは思いますがやはり無理だったという結論に至る可能性はあると思っている。議論をすることが大切だと思っているので、見守っていただきたい。</p>
委員	<p>意見として聞いてもらいたいのだが、生活安全活動支援事業に関連して、26年度からまちづくり・国際課という国際交流とまちづくりを主にやっている所属に交通安全、交通指導員を所管する業務が入ったが、市民生活部のなかにあるのは違うのではないかと。都市戦略部に地域交通課が、今年から自転車利用推進課もできた。そこで私の考えなのだが、総務部の中に交通に関する業務を集めたほうが連携がとりやすいのではないかとと思うので検討いただきたい。</p>
総合政策室	<p>以前は交通安全課は市民生活部の中にあっただ。奥村委員がおっしゃる交通安全の部分には教育委員会関係や市民の方に直接結びつく部分の交通安全であるので、そのまま市民生活部にある。ただ、道路の安全管理、通学路の安全管理など市民の方が利用される交通安全施設等については、一体的に市役所全部で取組んでいる。所管は名称でいうと違和感のある所属になっているかもしれないが、各部局が連携を意識しながら部局の縦割りを排除するような形で課題に取り組んでいる。今後の形、組織のあり方も含めてなるべく一体的に市民に分かりやすいような説明の仕方、事業の持ち方などを意識しながら考えていきたい。</p>
委員	<p>今後の外部点検の対応について思っていることを話したい。みなさん頑張って、我々の無理難題について真摯に考えてもらった。後は、それを市民にどう伝えていくかということが一番重要な課題だと私は思っていて、みなさんが考えていること、やっていることを外に見える化していかなければいけないと思う。そういう点で、外部点検結果に基づく対応のなかでも、どう見える化するかとこのところが分かるようにしてもらいたい。どういうふうに広報していくのか、市民に伝えていくのか、そういうところが一番抜けているのではないかなと思う。広報広聴課は大変になるのかもしれないが、やはりふくチャンネルの視聴率をアップしようというぐらいの職員の意識がないと駄目だと思う。例えば、毎日朝礼の前に職員の方はみんな福井市民の歌に合わせて運動をやっていると思うが、あれはどれだけの市民が知っているのだろうか。職員が一生懸命頑張って福井市を盛</p>

	<p>り上げていこうとする気持ちがあつて、さらにそれぞれの課で広報していく、伝えたいという想いを見える化していくことが外部点検に対しても必要だと思う。広報できない部分がある課もあるとは思うが、自分たちのところにおいてどういう風に広報していきたいという想いが対応のなかにでてくると良いと思った。</p>
委員	<p>せっかく一生懸命やっているのに空振りになってしまうこともあるので、大事なことだと思う。いいことをやっているのだから、ぜひ伝えていただければと思う。</p>
委員	<p>認知症施策総合推進事業について、関連事業で認知症カフェ設置事業というのがあり、気軽に集える場所を設置し補助をするとあるが、極端なことをいうと、私の自宅にも設置することができるのか。それとも、どこかに場所を設置するのか。</p>
介護保険課	<p>認知症カフェ設置事業については、スタッフに医療関係者や社会福祉士等の専門職の配置が必要で、福祉団体がここに認知症カフェを設置したいと申請した場合に補助事業として補助金をお渡しするもので、福井市がここに設置してほしいと指定するものではない。</p>
委員	<p>もう何箇所かあるのか。</p>
介護保険課	<p>26年度新規事業であるが、26年度は4箇所、認知症カフェを補助している。</p>
委員	<p>もっと広報していただけるとよい。</p>
介護保険課	<p>周知に努めていきたい。</p>
委員長	<p>それでは、時間なので終了としたい。 地方創生という言葉もでてきて、これからは国ではなく地方は地方でやっていかなければいけない時代になってきた。行革推進委員会の存在が重要なものになっていかなければいけないと思っており、前向きな提言やアクションをしていかなければいけないと思う。</p>
委員長	<p>それでは協議事項(2)その他について、事務局、委員から何かあるか。</p>
事務局	<p>次回の委員会については、来年度5月以降に第1回を開催させていただく予定である。また日程調整をさせていただくので、よろしく願いたい。</p>
委員長	<p>それでは、これで協議を終了する。</p>